

2016年度 第3回先端研セミナー

社会学から広がる“知”

——社会の研究の先端へ

2016年**11月30日(水)** 10:30~13:30

関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス

先端研セミナールーム

(社会学部3F)

プログラム

第1部：10:30~

「メディア社会のこれまでとこれから」

難波功士×鈴木謙介

第2部：11:30~

「データで人・社会を測るということ」

中野康人×清水裕士

第3部：12:30~

「フィールドに出て何を見るのか」

三浦耕吉郎×鈴木慎一郎

概要

人文・社会科学の置かれている立場は、現在、様々な角度から再考を促されている。いわゆる「実学志向」の波に押される形で生じている学びの変化はもちろんのこと、ポスト冷戦の世界における社会構造の変化、メディア環境の発達による知識・情報の氾濫、ますます多様化・複雑化・不透明化する社会課題など、既存の研究蓄積を、これからの社会のありかたといかに接続させられるかを問われるようになってきているのだ。

関西学院大学先端社会研究所ではこれまで、こうした現実をふまえ、先端的な研究、先端的な社会のありようを追求してきた。しかしながら、ややもするとそれらの「先端」は、個別の領域での研究の深みを極めるあまり、他の「先端」との関わりの中でどのように位置づけられるのかが明瞭でなくなっている。そこで今回は、先端研の研究の枠を飛び出し、社会学研究科に所属する複数の研究者によるシリーズ対談を通じて、複数の「先端」をクロスさせることを試みたい。専門分野もディシプリンも異なる研究者どうしの対談によって、今後のブレイクスルーとなる新たな先端の誕生を期待したい。

(コーディネーター：鈴木謙介)